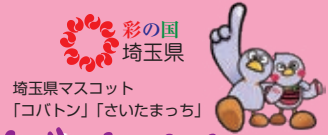




SAITAMA 精神保健福祉だより



〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室818番地2

・埼玉県立精神保健福祉センター TEL 048-723-3333 (代表) FAX 048-723-1561
ホームページ <https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0606/index.html>

CONTENTS

- 1 第68回精神保健福祉全国大会の開催について 1
第68回精神保健福祉全国大会事務局(埼玉県保健医療部疾病対策課 精神保健担当)
- 2 令和3年度依存症フォーラム(WEB配信)を開催しました 4
埼玉県立精神保健福祉センター 精神保健福祉部 企画広報担当
- 3 令和3年度若者自殺対策フォーラムについて 8
埼玉県立精神保健福祉センター 精神保健福祉部 企画広報担当

No.103
令和4年3月

※当機関誌は、埼玉県立精神保健福祉センターのホームページから、全文ダウンロードできます。是非、ご利用ください。(<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0606/tayori/index.html>)



1 第68回精神保健福祉全国大会の開催について

第68回精神保健福祉全国大会事務局
(埼玉県保健医療部疾病対策課精神保健担当)

精神保健福祉全国大会は、精神保健福祉に関する正しい知識の普及、精神保健福祉分野での功労者への表彰等を目的として昭和28年11月に第1回大会が開催されて以来、各都道府県で回を重ね、現在まで引き継がれています。写真にある「心を開く鍵」は、第1回から今大会まで68回分の重

みがあり、精神保健福祉全国大会の歴史を感じました。ここでは、令和3年10月15日に埼玉県で開催しました第68回大会について御報告いたします。

昨年度、山口県で開催を予定されていた大会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でやむなく中止されました。今年度も新型コロナウイルス感染症の終息が見通せないなかではありましたが、安心安全を心がけ、新しい生活様式を取り入れたハイブリッド方式で開催することとしました。来場者は県内の個人受賞者、団体受賞者代表者に限定し、全国各地の受賞者や関係機関の皆さまにはWEBで御参加いただきました。また、アトラクションや記念講演、シンポジウムは、事前収録した映像を放映、



配信する方法で行いました。例年とは異なる開催方法に対する皆さまの御理解、御協力に感謝申し上げます。

本来であれば、直接足を運んでいただき、埼玉県の自然、伝統工芸品や名産など、当県の魅力に直接触れていただきたいところではありましたが、WEBで開催したことにより、より多くの皆さまに本大会をお楽しみいただくことができたと考えています。

厚生労働大臣表彰では、全国で55人、9団体の方々が受賞され、公益社団法人日本精神保健福祉連盟会長表彰では、34人、7団体の方々が受賞されました。日頃の熱心な精神保健福祉に関する活動が、表彰という形で実を結んだことは喜ばしいことであり、全国で活躍する精神保健福祉に関わる団体の皆さまにとっては、今後の活動の励みになられたことと思います。

また、アトラクションでは公益社団法人埼玉県精神保健福祉協会が当事者の芸術活動の発表の場として取り組んできた「ココロのおぞら音楽祭」の活動を活かした合奏・合唱を収録した動画を披露していただきました。合奏や編集など、準備には多大なる時間を要したと思いますが、ひとつにまとまった合奏は、心を動かす大変素晴らしいものでした。アンケートでは、合奏をする皆様の姿に大変感銘を受けたとの感想が多数寄せられました。また、動画の中には、合奏をバックに当事者の方々が制作された細かな技巧、美しい色彩のアート作品も数多く拝見することができました。音楽に限らず、作品の出展という形で大会に御参加いただくなど、芸術活動の幅に広がり

を感じ、とても感動しました。

第68回精神保健福祉全国大会
—ダイバーシティ(多様性)の視点から 社会のあり方を考える—

○開催日時
令和3年10月15日(金)午後1時30分から午後3時まで
※ 大会当日午後3時から、記念講演及びシンポジウムを約1ヶ月間オンデマンド配信しました。

○開催方法
YouTubeチャンネルでのライブ配信とオンデマンド配信を組み合わせた、ハイブリッド方式

○プログラム
記念式典(表彰・アトラクション等)、記念講演、シンポジウム

大会テーマについて

大会のテーマは「ダイバーシティ(多様性)の視点から社会のあり方を考える」としました。これは、精神保健福祉のあり方の根底にあるのは、それぞれの人の生き方を認め、その人が自分らしさを発揮することのできる社会をつくることであり、そのためには、多様性を認め合うことが大切であるとの考えからです。そこで、この大会を多様性という視点で社会のあり方を考える一つの出発点にしたいと考えこのテーマとしました。

記念講演

埼玉県深谷市出身で、最近話題の人として、また、紙幣を飾る人物でもある渋沢栄一について、ノートルダム清心女子大学の杉山博昭教授に記念講演をお願いしました。

実は渋沢栄一について、あまり知られていないことですが、現在の生活保護法の前身である「救護法」の制定に尽力したり、資金難におちいった救護施設の救援に奔走したりしたことから、社会福祉の先駆者とされています。

そこで、社会福祉に尽力した渋沢栄一の

考えや姿勢をお話いただき、福祉のあり方を考えてみることにしました。

シンポジウム

埼玉県で多様性という視点から活動を続けてきた方々に、これまでの活動を語っていただき、皆さまとともに、多様性の意味と今後のあり方について考えてみたいと思い、シンポジウムを企画しました。

シンポジストには埼玉県人権推進課課長の渡邊淳一氏、深谷市立上柴東小学校校長の持田倫武氏、三芳町福祉課課長の三室茂浩氏にお話を頂きました。これまでそれぞれの立場で、多様性の問題にかかわってきた方々です。そこでは、多様性という視点からの問題が、学校現場でも、性のあり方という形でも、そして地域住民の間でも存在することを認識しました。そしてそのような多様性を受け入れる文化をどう作るかという重い課題のあることを確認しました。

視聴後のアンケートには北海道から九州、四国など、全国の40数名の方々からご回答を頂きました。その中では、渋沢栄一が福祉に関係していたことを知らなかった

という感想や、ご自分の地域での精神保健・福祉活動に対する感想や抱える悩みなどをいただきました。

おわりに

初めての試みであるハイブリッド開催でしたが、全国から医療・福祉関係者や教育関係者、行政機関など様々なお立場の方にご視聴、ご参加いただくことができました。今大会が精神保健・福祉に関わる方々や団体にとってこれまでの活動を振り返る機会となり、これから先に進んでいくエネルギーに少しでもなったのであれば幸いです。

また、全国の精神保健・福祉活動に携わる皆様に対し、ささやかなりとも、身の回りのことがらの中にある、多様性という視点の大切さを、発信できたのではないかと考えています。

開催、共催された諸団体の皆様には準備の段階から、そして当日も、ハイブリッド開催という慣れない大会がスムーズに運営されたことに深く感謝申し上げます。

心を開く鍵は次回開催地である山口県へと引き継がれます。



2 令和3年度依存症フォーラム（WEB配信）を開催しました

精神保健福祉部 企画広報担当

今年度の開催について

依存症フォーラムは、様々な依存問題についての啓発を目的として平成30年度から開催している一般県民向けのイベントです。例年、依存関連問題に関心のある当事者・家族・支援者等の方々から多くのご参加を頂いています。令和2年度には新型コロナウイルスの感染拡大をうけた社会情勢を鑑み、全編をWEB配信で実施したところ、県内外の方々から多くの好評の声を頂きました。そこで今年度についても、感染拡大防止の観点から、WEB配信にて依存症フォーラムをお届けすることに決定しました。

今年度は、さいたま市依存症相談拠点機関であるさいたま市こころの健康センターと共催し、更に同市内の依存症専門医療機関の与野中央病院・白峰クリニックが新たな協力機関として加わりました。

概要

配信期間	令和3年12月22日（水） ～令和4年1月11日（火）
方法	埼玉県公式YouTube「限定公開セミナー動画チャンネル」における限定公開
構成	・第1部 講演 ・第2部 団体紹介

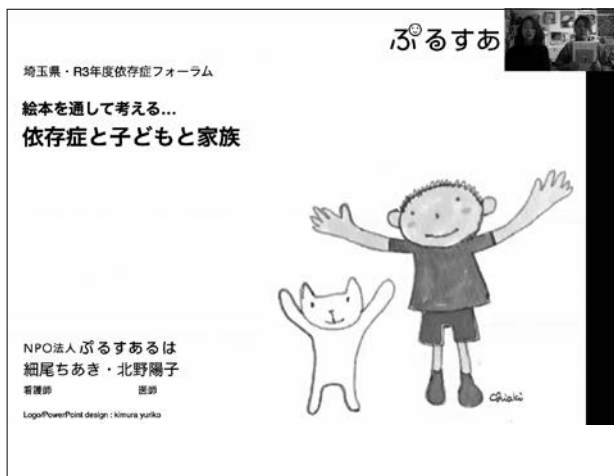
①講演について

NPO法人ふるすあるはの北野陽子先生・細尾ちあき先生に『依存症と子どもと家族』と題してご講演を頂きました。NPO法人ふるすあるはは、医師で代表の北野先生と精神科の看護師である細尾先生が、オリジナル絵本など心理教育ツールの制作・普及のため2012年に立ち上げた「ブルスアルハ」を発展させる形で、2015年6月に設立したNPO法人です。精神障がいやこころの不調、発達凹凸を抱えた家庭や、さまざまな事情の中で頑張っている子どもたちを、絵本やウェブサイトなどの情報コンテンツを通して応援しています。また、「必要だけどこれまでなかった」ツールの制作や、様々な情報発信を通して、精神保健全般に関する普及啓発活動も行っています。

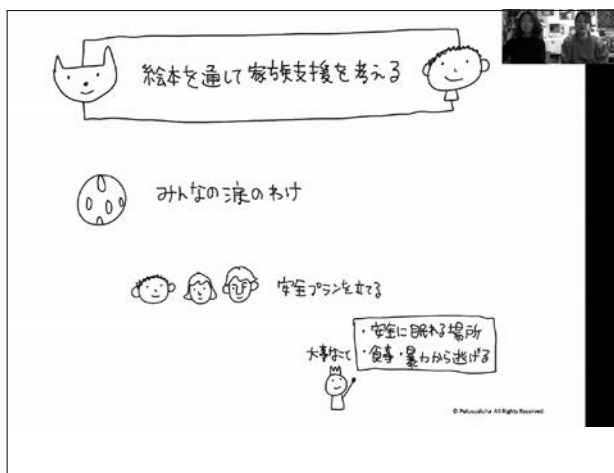
今回はNPO法人ふるすあるはが執筆している絵本『ボクのことわすれちゃったの？-お父さんはアルコール依存症』（出版：ゆまに書房）を題材に、依存症の問題がある家庭で育つ子ども・その心配のある全ての家庭で育つ子どもと、家族全体の支援についてお話頂きました。

この絵本は親がアルコール依存症になったときの、子どもの気持ちの理解とかかわりをテーマにしています。主人公のハルは小学校低学年。相棒はネコのココ。お父さ

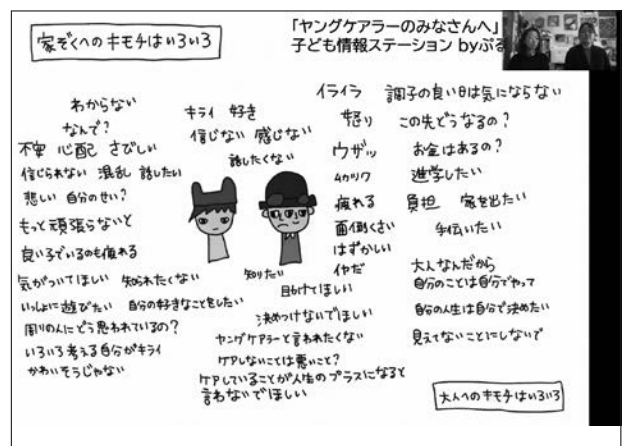
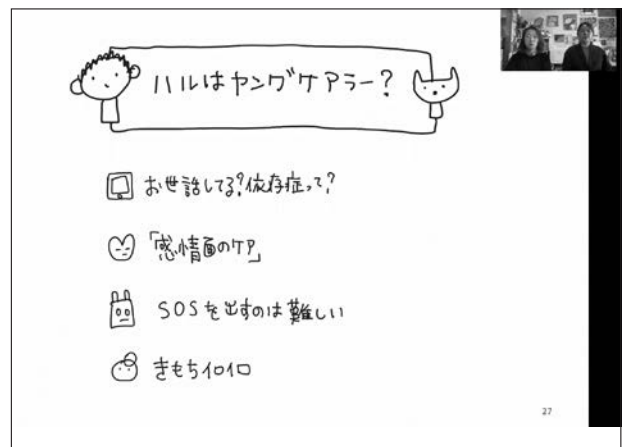
んは最近、お酒を飲んでばかり。キャッチボールの約束をしてもお酒を飲んでしまいます。お酒をとめようとするお母さんとケンカになったり、ケガをして救急車で運ばれたり…。そんなお父さんが、いくつかの契機を経て、専門治療につながり、お母さんは家族会につながります。ハルにもお父さんの病気について説明し、家族全体が回復の一步を踏み出すまでを描いています。（参考：NPO法人ふるすあるはHP）

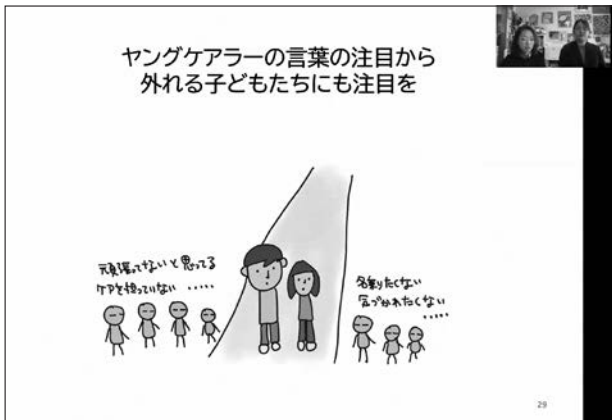


講演はまず、細尾先生による絵本の朗読から始まりました。朗読後は絵本のストーリーに沿って、北野先生の進行のもと、絵本の作者である細尾先生から解説を頂きました。登場人物それぞれの思いや、支援のポイントについて分かりやすくご説明頂きました。



講演の中盤では、昨今注目が高まっているヤングケアラーの視点についてもふれて頂きました。ヤングケアラーの視点は大切であるものの、子どものSOSをキャッチするためにはどんな背景をもつ子どもなのかに注目することが必要です。そして子どもが感じていること・どんなサポートであれば受け止めやすいかについて想像力を働かせることが非常に大切であるとお話頂きました。





そして講演の終盤にはぶるすあるはが公開している豊富な資料についてご紹介頂きました。



視聴者のアンケートからは「絵本を活用していただけたので、イメージしやすかったです。後半の解説では、父親・母親・こども、それぞれの感情を想像することができました。」「もしかしたら普段接している方の中、あるいはその近くにそういった思いを表に出さず（出せず）にいる人がいるかもしれないと感じた。」「朗読の時点で涙ができました。今以上に、子どもを置いてきぼりにしないよう見守って支援をしていきたい。」「ヤングケアラーという概念が、『それに当てはまらない子供』を支援から取りこぼす原因になりうるということを認識させられた。」「今回の絵本やぶるすあるはのツールを日頃の支援の中で活用したい」といったご感想を頂きました。

②団体紹介について

紹介団体：埼玉ダルク、埼玉県断酒新生活会、さいたまマック、浦和まはろ相談室、埼玉県立精神医療センター、埼玉県済生会鴻巣病院、不動ヶ丘病院、与野中央病院、白峰クリニック、NA、GA、ギャンノン日本サービスオフィス、ギャンブル依存症家族の会埼玉、依存症ご本人の自助グループ、家族の回復ステップ12、さいたま市こころの健康センター、埼玉県立精神保健福祉センター

動画にて1団体につき5分程度の団体紹介を行いました。参加団体は大別して、アルコール依存症関連団体・薬物依存症関連団体・ギャンブル依存症関連団体・医療機関・相談機関でした。昨年度に引き続き、団体の活動概要や理念、活動内容等が個性豊かに表現された見ごたえのある動画が並びました。視聴者のアンケートからは「紹介動画はわかりやすく、親しみをもつことができた。」「団体名・病院・相談先など名前は知っていましたが、どのような業務をされているのか、現場の方々のメッセージからイメージすることができました。」「医療機関の紹介動画が特によかったです。院内の様子や雰囲気を知ることができ大満足です。」等のご感想を頂きました。

今年度の開催を振り返って

2回目のWEB配信となる今年度の依存症フォーラムは、約760名の方からお申込みを頂き、第1部・第2部とも動画の再生

回数は1,000回前後を記録しました。視聴者の方からは「依存症については普段直接関わることはありませんが、情報として知っておきたくて今回の研修に申し込みました。(中略)今の自分には直接関わりがないかもしれませんが、知っておくことで自分にもできることがあるのではないかと考えることができました。」「薬物・ギャンブルの相談が継続しないことが多く、こちらの勉強不足を感じるものが少なくありません。(中略)専門支援機関の方と連携しながら、少しでも本人や家族にとってベストに近づけるような支援をしたいと感じています。」「見えないところで苦しんでいる児童や家族がいるかもしれない、なにか情報を得られればと思い申し込みしました。動画配信のため、聞く機会を持つことができ埼玉県内の情報を得ることができました。また、機会があったら申し込みしたいです。」といったご感想を頂きました。

今年度はさいたま市こころの健康センター・教育局保健体育課・保健医療部疾病対策課・福祉部社会福祉課/地域包括ケア課にも積極的な周知のご協力を頂き、依存症フォーラムの存在を多くの方々に認識い

ただけたことが伺われます。また昨年度と同様、参加者の所属・職種・立場・地域の広がりからは、皆様の依存関連問題についての高い関心と、WEB配信によるアクセシビリティの高まりが感じられました。

今後に向けて

今年度は昨年度のアンケート結果を参考にして、年末年始・連休を含む動画配信期間や、動画への目次機能の設定など、お仕事やご家庭の事情がある方が参加しやすい工夫をしました。WEB配信は利便性が高い一方、参加された皆様の反応を受け取ることが難しい一面があります。そのため、アンケート等による皆様のフィードバックが、本企画の有用性を向上させていくための大きな力になっております。今後もこころの健康に関するあらゆる情報が、県民の皆様のお手元に届きやすくなるよう、より良い普及啓発の在り方について工夫を重ねて参ります。またこの場をお借りして、本企画にご尽力頂いた共催団体の皆様、協力団体の皆様、団体紹介動画ご参加の皆様に厚く御礼を申し上げます。



3 令和3年度若者自殺対策フォーラムについて

精神保健福祉部 企画広報担当

精神保健福祉センターでは、初めての試みとなる若者の自殺対策をテーマとしたフォーラムを開催します。

令和3年度若者自殺対策フォーラム概要

配信期間 令和4年3月1日（火）～令和4年3月21日（月）

方 法 埼玉県公式YouTubeチャンネル「限定公開セミナー動画チャンネル」における限定公開（※申込者のみ）

第1部

講演：「若者の生き方、あなたにはどう見えていますか？」
～自殺やひきこもりの背景、今からできることを考える～

講師：菊池礼子氏（菊池臨床心理オフィス・臨床心理士）

第2部

講演：「生きづらさを抱える若者との関わり・つながりについて考える」

講師：鎌倉賢哉氏（埼玉県ひきこもり相談サポートセンター長／NPO法人越谷らるご理事長）

- ①お話：若者とのつながりや相談の受け方について
- ②県内ひきこもり支援団体のご紹介
- ③ほっとりんごメンバー座談会

※ほっとりんご：NPO法人越谷らるごが運営する20歳以上の方の居場所です。

詳細につきましては精神保健福祉センターホームページをご参照ください。

